

UBZ-LU20 UBZ-LU27 UBZ-LU27BT

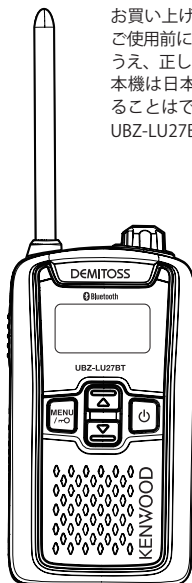
特定小電力トランシーバー

取扱説明書 (詳細編)

お買い上げいただきましてありがとうございました。
ご使用前にこの「取扱説明書 (詳細編)」をよくお読みの
うえ、正しくお使いください。

本機は日本国内専用のモデルですので、国外で使用
することはできません。

UBZ-LU27BT は Bluetooth[®] 搭載モデルです。



株式会社 JVCケンウッド

B5A-4709-00 (J)

目次

安全上のご注意

ご使用の前に

ご使用上の注意	12
電波法に関するご注意	13
防塵 / 防水性能について	13
Bluetooth® 機能に関する表示 (UBZ-LU27BTのみ)	14
Bluetooth 機能による電波干渉についてのご注意	14
UBZ-LU20 と UBZ-LU27/ UBZ-LU27BT の違いについて	15
運用モードについて (UBZ-LU27/ UBZ-LU27BTのみ)	16
本機の付属品	17
電池について	17
アンテナを立てる	20
電池を入れる	20
バッテリーパック UPB-5N の充電のしかた	22
UBC-10 を使った充電方法	22
オプション機器を接続する	24
端子カバーが外れたときの取り付け方	25
ベルトフックを取り付ける	26
ストラップを取り付ける	27

各部の名称と機能

各キーの機能	28
表示部のアイコン一覧	29
各キーの動作図	32

基本操作

基本操作一覧	33
運用モードの設定 (UBZ-LU27/ UBZ-LU27BTのみ)	34
簡易メニュー	35
グループ番号の設定	35
ボイススクランブル (秘話) 機能の設定	36
機能設定メニュー	38
機能設定のしかた	38
設定項目一覧	39
通信時間の制限について	42
交互通話モード (シンプレックス) での通信操作	43
中継器アクセスモード (セミデュプレックス) での通信操作 (UBZ-LU27/ UBZ-LU27BTのみ)	45

基本機能

オートチャンネルセレクト	46
オートチャンネルセレクトキー設定	46

オートチャンネルセレクトを使う	47
オートチャンネルセレクトを解除する	48
モニター	49
モニターする	49
モニターを解除する	49
リモコン対応マイクロホンからモニター状態にする	50
コールトーン呼び出し	50
コールトーン音色設定	50
本機のキーでコールトーン呼び出しをする	51
リモコン対応マイクロホンのリモコンキーを押して、コールトーン呼び出しをする	51
グループ番号不一致通知	51
キーロック	52
キーロック長押し時間設定	52
キーロックをする	53
キーロックを解除する	53
VOX	54
VOX レベル設定	55
VOX 遅延時間設定	56

その他機能

通信に関する設定	57
送信パワー設定 (UBZ-LU27/ UBZ-LU27BTのみ)	57
通話告知音設定	58
通話告知音動作設定	59
送信禁止設定	60
PTT ホールド設定	61
PTT ホールド自動復帰設定	62
バッテリーに関する設定	63
バッテリーセーブ設定	63
エコモード動作設定	64
オートパワーオフ設定	65
バッテリー種別設定	66
表示に関する設定	67
バックライト動作設定	67
チャンネル番号切替設定	68
チャンネル非表示設定	69
音に関する設定	70
ビーブ音設定	70
スケルチレベル設定	71
ラウドネス設定	72

目次

リモコンキーの設定	73
リモコンキー設定	73
Bluetooth® に関する設定 (UBZ-LU27BTのみ)	74
Bluetooth 設定	74
Bluetooth 機器ペアリング設定	75
Bluetooth マイクの入力切替設定	78
Bluetooth の初期化	79

その他

オプション一覧	80
故障かな?と思ったら	81
オールリセット	86
保証とアフターサービスについて	87
仕様	88

説明上の注釈表記について



このマークが付いた注釈は、使用上での注意事項が記載されています。



このマークが付いた注釈は、使用上での補足事項が記載されています。

本書の用語について

用語	意味
本機 無線機本体	特定小電力トランシーバー (UBZ-LU20/ UBZ-LU27/ UBZ-LU27BT) を指す。
電池	バッテリーパック (充電電池) と、アルカリ乾電池を指す。
トランシーバー	交互通話モード (シンプレックス)、中継器アクセスモード (セミデュプレックス) に対応した特定小電力トランシーバーのこと。

安全上のご注意

絵表示について

この「安全上のご注意」には、お使いになるかたや他の人への危害と財産の損害を未然に防ぎ、安全に正しくお使いいただくために、重要な内容を記載しています。ご使用の際には、次の内容（表示と意味）をよく理解してから本文をお読みになり、記載事項をお守りください。

 **危険**

この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う危険が差し迫って生じることが想定される内容を示しています。

 **警告**

この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

 **注意**

この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

絵表示の例

	注意（警告を含む）が必要なことを示す記号です。
	禁止（してはいけないこと）を示す記号です。
	分解してはいけないことを示す記号です。
	水がかかる場所で使用したり、水に濡らしたりしてはいけないことを示す記号です。
	指示に基づく行為の強制（必ず実行していただくこと）を示す記号です。
	電源プラグをコンセントから抜いていただくことを示す記号です。

⚠危険

使用環境・条件

-  引火、爆発の恐れがありますので、プロパンガス、ガソリンなどの可燃性ガスの発生するような場所では使用しないでください。
-  運転しながら無線機を操作（通信）するのはおやめください。安全な場所へ車を停車させてから操作（通信）してください。

電池の取り扱いについて

電池は以下のことをお守りいただけない場合、けがや電池の漏液、発火、発熱、破裂させる原因となります。

-  電磁調理器の上に置いたり、電子レンジや高压容器に入れたりしないでください。
-  火の中に投入したり、加熱したり、ハンダ付けしたり、分解したりしないでください。
-  端子を針金などの金属類でショートさせないでください。また、ネックレスやヘアピンなどの金属物と一緒に持ち運んだり、保管したりしないでください。

電池から内部の液体などが漏れている場合は、直ちに使用をやめて、下記のことをお守りください。

-  電池内部の液体が目に入ったときは、失明のおそれがありますので、こすらずに、すぐにきれいな水で洗ったあと、直ちに医師の治療を受けてください。
-  電池内部の液体が皮膚や衣服に付着したときは、皮膚に障害をおこすおそれがありますので、すぐにきれいな水で洗い流してください。

バッテリーパック (充電機) の取り扱いについて

バッテリーパック (充電機) は以下のことをお守りいただけない場合、けがや電池の漏液、発火、発熱、破裂させる原因となります。

-  バッテリーパック (充電機) の充電温度範囲は、5℃～40℃です。この温度範囲以外では充電しないでください。
-  バッテリーパック (充電機) を、指定している充電器以外では充電しないでください。
-  バッテリーパック (充電機) を、本機以外の機器に取り付けしないでください。
-  濡れた本機とバッテリーパック (充電機) を充電しないでください。火災や感電の原因となります。
-  必ず専用のバッテリーパック (充電機)、充電器、ACアダプターを使用して充電してください。指定以外の機器を用いて充電すると故障の原因になります。

使用方法について

-  電池を逆に装着すると、発熱し、破裂する危険性があります。

警告

使用環境・条件

-  電子機器の近くでは使用しないでください。電波障害により機器の故障・誤動作の原因となります。
-  空港施設、鉄道施設、港湾、病院などの管理区域に指定されている場所での無線機の使用については、各施設管理者にお問い合わせ、ご確認したうえでご使用ください。
-  本機を使用できるのは、日本国内のみです。国外では使用できません。

使用方法について

-  エアバック装置の近くに本機を置かないでください。エアバック装置が作動したときなど装置が体に当たってけがをすることがあります。
-  機械に巻き込まれる恐れのある場所では、スピーカーマイクホンなどのケーブルを首に掛けしないでください。けがの原因となります。
-  本機の近くに小さな金属物や水などの入った容器を置かないでください。こぼれたり、中に入ったりした場合、火災・やけど・感電・故障の原因となります。
-  本機は調整済みです。分解・改造して使用しないでください。火災・やけど・感電・故障の原因となります。
-  アンテナやストラップを持って、本機を振り回さないでください。人に当たってけがを負わせたり、ものに当たって装置が破損したりすることがあります。
-  ネックストラップを使用している場合、ネックストラップがドアや機械などに挟まれないように注意してください。けがの原因となります。
-  アンテナを誤って目にささないようにご注意ください。
-  高温になる場所（火のそば、暖房機のそば、こたつの中、直射日光の当たる場所、炎天下の車内など）で使用、保管、放置しないでください。火災・やけど・けがの原因となります。
-  本機の付属品や、本機から取り外したものを幼児、子供の手の届くところに置かないでください。あやまって飲み込むおそれがあります。万一、飲み込んだ場合は直ちに医師に相談してください。
-  直射日光が当たる場所や車のヒーターの吹き出し口など、異常に温度が高くなる場所には置かないでください。内部の温度が上がり、ケースや部品が変形・変色し、火災・やけどの原因となることがあります。

-  ぐらついた台の上や傾いたところ、振動の多い場所には置かないでください。落ちたり、倒れたりしてけがの原因となることがあります。
-  本機は、充電動作中にバッテリーパックの温度が高くなる場合があります。バッテリーパックを交換するときは、やけどに十分気を付けて取り外してください。
-  外装ラベルがはがれた乾電池は使用しないでください。ラベルをはがさないでください。はがれることによって端子がショート状態になり液漏れ、発熱、破裂の原因になります。
-  異なる種類の乾電池や、新しい乾電池と古い乾電池を混ぜて使用しないでください。

異常時の処置について

-  内部に水や異物が入った場合や、落したり、ケースを破損したりした場合、または異常な音がしたり、煙が出たり、変な臭いがしたりするなどの異常な状態になった場合は、そのまま使用すると、火災・やけど・感電・故障の原因となります。
-  煙が出たら、やけどに注意してすぐに電源を切り、電池を外し、充電中は電源プラグをコンセントから抜き、煙が出なくなるのを確認してから、お買い上げの販売店にご連絡ください。
-  落下などにより破損した部品には直接触らないでください。けがの原因となります。
-  雷が鳴り出したら、安全のため早めに電源を切り、充電中は電源プラグをコンセントから抜いて、ご使用をお控えください。

保守・点検

-  本機のケースは開けないでください。感電・けが・故障の原因となります。内部の点検・修理は、お買い上げの販売店にご依頼ください。お客様による修理は、危険ですから絶対におやめください。

⚠ 注意

使用環境・条件

-  テレビやラジオ、パソコンの近くで使用しないでください。電波障害を与えたり、受けたりすることがあります。
-  調理台や加湿器のそばなど油煙や湯気が当たるような場所には置かないでください。火災・感電・故障の原因となることがあります。
-  結露した場合は、自然乾燥させるか、長い時間同じ環境に置くなどして、結露がなくなってからご使用ください。

使用方法について

-  オプション機器は指定された製品以外を使用しないでください。指定機器以外を使用すると誤動作や故障の原因になります。
-  電池カバーが外された状態で本機を使用しないでください。
-  ベルトフックに指をはさまないようにご注意ください。
-  電池を本機から出し入れするときは、無線機本体や電池を落とさないようご注意ください。
-  スピーカー / マイク端子には指定されたオプション以外は接続しないでください。故障の原因となることがあります。
-  乾燥した部屋やカーペットを敷いた廊下などでは静電気が発生しやすくなります。このような場所では、イヤホンを使用したときに静電気で耳の皮膚に電気ショックを感じる場合があります。静電気が発生しやすい場所ではイヤホンを使用しないか、スピーカー・マイクロホンをご使用ください。
-  充電しながら本機を使用することはできません。必ず本機の電源を切ってください。
-  長期間使わないときは、電源を切り、電池を外してください。

次のページへつづく

 お手入れの際は、安全のため電源を切り、電池を外してください。

 イヤホンを使用するときは、音量を上げすぎないでください。聴覚障害の原因となることがあります。

 スピーカー・マイクロホンなどを本機に接続している場合は、音量を下げてください。モニター機能を使用するときの音量に注意してください。

 水滴が付いたら、乾いた布でふき取ってください。汚れのひどいときは、水で薄めた中性洗剤をご使用ください。シンナーやベンジンは使用しないでください。

 充電端子部の清掃には、ウェットティッシュは使用しないでください。ウェットティッシュを使用して清掃すると接触不良の原因となることがあります。
充電端子部の清掃には、乾いた綿棒を使うか、綿棒などに無水エタノール（無水アルコール）を少量含ませて、端子が変形しないようにやさしく拭いてください。無水エタノール（無水アルコール）は薬局・薬店で市販されています。

 充電端子部以外の外観などで汚れがひどいときは、水で薄めた中性洗剤をご使用ください。シンナーやベンジン、アルコールは使用しないでください。

 本機は、長時間、送信のために使用される場合、本体の金属部分が熱くなるため、バッテリーパック（充電電池）を交換するときなどは、金属部分には手を触れないでください。

 マイクの開口部やスピーカーグリルに水が入ると、音声レベルが不安定になったり歪んだりすることがあります。本機を操作する前に、本機を軽く振って、スピーカーやマイクから水を取り除いてください。

 オプション機器の接続が無く、端子カバーが開いているときに水没し、内部に水や異物が入った場合は、そのまま使用すると、火災・感電・故障の原因となります。お買い上げの販売店にご連絡ください。

 ◆ 充電器など別売りの外部機器使用時の注意については使用する機器に付属の取扱説明書をご覧ください。

ご使用の前に

ご使用上の注意

- 施設の管理などにより、無線機器の使用が禁止されているところでは、本機を使用しないでください。
- 本機を複数で使用する場合、近距離（約 10 m 以内）で同時に通信しないでください。異なるチャンネル同士であっても、電波妨害が発生することがあります。
- テレビやラジオ、パソコンなど電子機器の近くで使用すると、電波妨害を与えたり、受けたりすることがあります。これらの機器からは離れてお使いください。
- 通話のできる距離は地形や環境（天候や建物などの障害物）によって短くなることがあります。そのようなときは、少し場所を移動して運用してください。
- 通話のできる距離の目安は下記のとおりです。建築物が多い地域や、自動車などの金属物体の周囲では、通話のできる距離が短くなります。
 - ◆ 市街地：100 m ～ 200 m
 - ◆ 見通しのよい場所：1 km ～ 2 km
- 本製品は抗菌・抗ウイルスのセルフフィール[®]を加工済です。セルフフィール[®]はニチリンケミカル株式会社の登録商標です。
- その他の商標および登録商標は、それぞれの所有者の商標および登録商標です。

免責事項について

- ◆ 本機の故障・誤動作などにより、利用の機会（通話など）を逸したために発生した障害などの付随的損害については、弊社は一切その責任を負いかねます。
- ◆ お客様または第三者が、この製品の誤使用、使用中に生じた故障、その他の不具合またはこの製品の使用によって受けられた損害については、法令上賠償責任が認められる場合を除き、弊社は一切その責任を負いませんので、あらかじめご了承ください。

電波法に関するご注意

- 本機は電波法に基づいて、特定無線設備の工事設計についての認証を取得した、特定小電力トランシーバーです。本機裏面の工事設計認証ラベルははがさないでください。
- 本機を分解したり、改造したりして使用することは電波法により禁止されています。
- 他人の通信を聞いてこれを漏らしたり、窃用したりすることは電波法により禁止されています。

防塵 / 防水性能について

本機単体は IP54 規格に準拠した製品（端子カバー、電池カバー密閉時）です。多少の水がかかっても問題はありませんが、蛇口からの水をかけたり、水の中に落としたりすると故障の原因になりますのでご注意ください。水分が付いたときは、直ちに乾いた布でよくふき取ってください。外部スピーカー / マイク接続用端子の端子カバーを開いているときや、外部スピーカー / マイク接続用端子にオプションのスピーカーマイクロホンなどが接続されているときは、防水規格に準拠できなくなります。

IP54 (防塵・防沫形):

有害な影響が発生するほどの粉塵が中に入らない。あらゆる方向からの水の飛沫による有害な影響がない。

ご使用の前に

Bluetooth® 機能に関する表示

UBZ-LU27BTのみ

本機背面に貼られているラベルに記載の、Bluetooth 機能に関する表示について説明します。

	「2.4」	2.4 GHz 帯を使用する無線設備を表します。
	「FH」	変調方式を表します (FHSS: 周波数ホッピング・スペクトラム拡散方式)。
	「1」	想定干渉距離を表します (10 m 以下)。
	「  」	全帯域を使用し、かつ移動体識別用の構内無線局および特定小電力無線局ならびにアマチュア局の帯域を回避可能であることを意味します。

Bluetooth機能による電波干渉についてのご注意

本機の Bluetooth 機能を使用するときは、下記の内容についてご注意ください。

- Bluetooth に使用される 2.4 GHz 帯では、電子レンジなどの産業・科学・医療用機器のほか、工場の製造ラインなどで使用されている移動体識別用の構内無線局 (免許を要する無線局) および特定小電力無線局 (免許を要しない無線局)、ならびにアマチュア局が運用されています。

本機の Bluetooth 機能を使用する場合は、上記の機器や無線局と電波干渉する恐れがあるため、下記の事項に注意してください。

- 本機の Bluetooth 機能をオンにする前に、近くで移動体識別用の構内無線局および特定小電力無線局、2.4 GHz 帯のアマチュア局など (以降「他の無線局」という) が運用されていないことをご確認ください。
- 万一、本機の Bluetooth 機能により「他の無線局」に対して有害な電波干渉の事例が発生した場合には、すみやかに本機の使用場所を変更するか、本機の Bluetooth 機能をオフにしたうえで、JVC ケンウッドカスタマーサポートセンターへご連絡いただき、混信回避の処置についてご相談ください。

Bluetooth® ワードマークおよびロゴは登録商標であり、Bluetooth SIG, Inc. が所有権を有します。

株式会社 JVC ケンウッドは使用許諾のもとでこれらのマークおよびロゴを使用しています。

UBZ-LU20 と UBZ-LU27/ UBZ-LU27BT の違いについて

UBZ-LU20 と UBZ-LU27/ UBZ-LU27BT では使用できる運用モードが異なります。同じ運用モードのトランシーバー同士で通信できます。

機種 / 運用モード	交話モード (シンプレックス)	中継器アクセスモード (セミデュプレックス)
UBZ-LU20	○	×
UBZ-LU27/ UBZ-LU27BT	○	○

ご
使
用
の
前
に

《「運用モードについて」▶ p.16》

《「運用モードの設定 (UBZ-LU27/ UBZ-LU27BTのみ)」▶ p.34》

《「交話モード (シンプレックス) での通信操作」▶ p.43》

《「中継器アクセスモード (セミデュプレックス) での通信操作 (UBZ-LU27/ UBZ-LU27BTのみ)」▶ p.45》

チャンネル番号表示について

本機のチャンネル番号表示は、連番表示と h 番号 (h1 ~ h9) のチャンネルが混在する従来機の表示から選ぶことができます。

《「チャンネル番号切替設定」▶ p.68》

連番表示と従来機表示との比較は下表をご覧ください。

■ 交話モード (シンプレックス)

直接トランシーバー同士で通信するモードです。20 チャンネルに対応し、従来機の 11 チャンネル (1 ~ 11) および 9 チャンネル (h1 ~ h9) のどちらも使用できます。

連番表示	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
従来機表示	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	h1	h2	h3	h4	h5	h6	h7	h8	h9

ご使用の前に

■ 中継器アクセスモード(セミデュプレックス)

UBZ-LU27/ UBZ-LU27BTのみ

オプションの中継器を介して通信するモードです。27チャンネルに対応し、従来機の18チャンネル(1～18)および9チャンネル(h1～h9)のどちらも使用できます。

連番表示	1	2	3	4	5	～	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27
従来機表示	1	2	3	4	5	～	16	17	18	h1	h2	h3	h4	h5	h6	h7	h8	h9

運用モードについて UBZ-LU27/ UBZ-LU27BTのみ

UBZ-LU27/ UBZ-LU27BTは、通信方法により2つの運用モードが使用できます。

同じ運用モードのトランシーバー同士でのみ通信できます。

■ 交互通話モード(シンプレックス)

直接トランシーバー同士で通信するモードです。

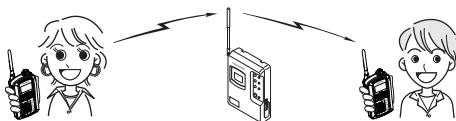


- 交互通話モード(シンプレックス)での通信操作は「交互通話モード(シンプレックス)での通信操作」▶ p.43 ▶をご覧ください。
- UBZ-LU20は、交互通話モード(シンプレックス)のみで、運用モードの変更はできません。

次のページへつづく

■ 中継器アクセスモード (セミデュプレックス)

オプションの中継器<<「オプション一覧」▶ p.80 >>を介して通信するモードです。安定して通信できる範囲が広がります。



- UBZ-LU27/UBZ-LU27BT で中継器アクセスモード (セミデュプレックス) を使用する場合は、運用モードを設定してください。
 <<「運用モードの設定」▶ p.34 >>

本機の付属品

付属品がすべて揃っていることをご確認ください。

ベルトフック (J2K-0447-**).....	1
取扱説明書 (基本編).....	1



- ◆ 保証書は、「取扱説明書 (基本編)」表面の左下部分をご覧ください。
- ◆ 付属品の保証期間は、無線機本体の保証期間と異なります。詳細は、「保証とアフターサービスについて」<<▶ p.87 >>をご覧ください。
- ◆ 付属品のベルトフックを購入される場合は、本機をご購入の販売店様でお取り寄せください。

電池について

アルカリ乾電池 (単 3 形 3 本: 4.5 V)、またはオプションの専用充電式バッテリーパック (UPB-5N) を使用してください。

使用する電池の種類設定

使用する電池の種類によって、設定を変えてください<<「バッテリー種別設定」▶ p.66 >>。お買い上げ時の設定は「アルカリ乾電池」です。

電池と設定が合っていないと、電池残量表示が正しく表示されません。<<「電池の残量表示について」▶ p.18 >> 次のページへつづく

ご使用前に



- ◆ 単 3 形充電式電池は使用しないでください。端子や電池の被覆がショートして発熱し、本機が壊れることがあります。
- ◆ 本機はすべてのアルカリ乾電池（単 3 形）で動作することが保証されているわけではありません。乾電池の種類によっては使用可能時間が極端に短くなったり、電池が減ってきた際に誤動作したりする場合があります。

電池の残量表示について

電池の残量の目安を 3 段階で表示します。

3 個表示していると満充電の状態です。1 個表示になると、警告音「ピーピーピーピー」が約 1 分ごとに繰り返し鳴り、バッテリー容量が低下していることをお知らせします。早めに電源を切り、新しい単 3 形アルカリ乾電池と交換するか、バッテリーパック（充電電池）を充電してください。



3 個表示



2 個表示



1 個表示

電池の使用可能時間の目安

アルカリ乾電池使用時

使用条件	バッテリーセーブ機能	
	on (初期値)	ECo (H)
内蔵スピーカー使用時	60 時間	70 時間
イヤホンマイク使用時 (EMC-3A)	80 時間	100 時間

バッテリーパック UPB-5N 使用時

使用条件	バッテリーセーブ機能	
	on (初期値)	ECo (H)
内蔵スピーカー使用時	24 時間	25 時間
イヤホンマイク使用時 (EMC-3A)	28 時間	32 時間

※ 測定条件：送信 1：受信 1：待受 8 の使用時（送信出力 10mW、室温 25℃）

※ 電池の使用可能時間は周囲温度や音量、電池の種類などの使用条件により変動します。

バッテリーセーブについて

電池の消耗を防ぐ機能です。待ち受け状態で数秒間キー操作がないと、この機能が働きます。信号を受信するか、キー操作をするとバッテリーセーブは解除されます。

バッテリーセーブは“on”、または“on”より電池の使用可能時間を伸ばす“ECo”を選ぶことができます。《「バッテリーセーブ設定」▶ p.63》。

※ バッテリーセーブは簡易メニュー/メニュー設定中やモニター中、オートチャンネルセレクト中は動作しません。

バッテリーパック (充電電池)の特性について

- 充電 / 放電を繰り返すと、使用できる時間が徐々に短くなります。
- 使用せずに置いておくだけでもわずかながら充電電池の劣化が進みます。
- 高温状態で充電 / 放電したり、本機を使用したりすると寿命が短くなります。また、高温状態での保管も劣化の進行が早まります。車の中に置いたままにしたり、暖房機の上に置いたりしないでください。
- 充電電池を高温状態で放置すると使用できなくなります。バッテリーパックが冷えてから使用してください。冷えても使用できない場合は、一度充電してください。使用できるようになります。
- 長期間保管後は、バッテリー容量が低下していることがあります。必ず充電してからご使用ください。

電池に関するご注意

電池は、使い方を誤ると破裂や破損、液もれ、故障の原因となります。次の注意事項を必ずお守りください。

- 指定以外の電池は使用しないでください。
- 異なる種類の乾電池や、新しい乾電池と古い乾電池を混ぜて使用しないでください。
- 火の中へ投げ込まないでください。
- 長時間使用しないときは、電池を本機から取り出してください。
- 電池の端子をショートさせないでください。
- 電池を分解しないでください。
- 電池を本機から出し入れするときは、電池を落とさないようご注意ください。

ご使用の前に

使用済みバッテリーパック (充電電池)の取り扱い注意事項

- プラス端子、マイナス端子をテープなどで絶縁してください。
- 被覆をはがさないでください。
- 分解しないでください。



Ni-MH
充電式

不要になったバッテリーパックは、貴重な資源を守るために廃棄しないで充電式電池リサイクル協力店、弊社営業担当窓口、または販売店へお持ちください。リサイクルにご協力お願いいたします。

アンテナを立てる

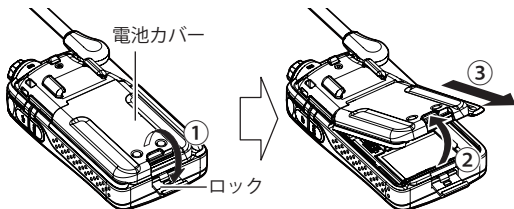
電波が弱いときなど、必要に応じてアンテナを垂直に立てて使用してください。



電池を入れる

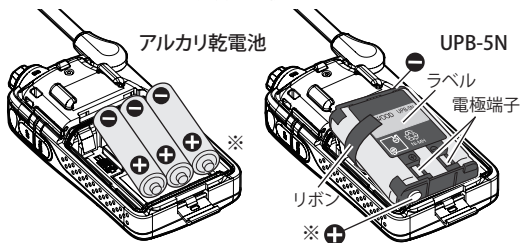
電池カバーを開ける前に、アンテナを立てておきます。

- 1** 本体を持ち、指でロックを外し、電池カバーを取り外す



次のページへつづく

2 電池ケースの+-の表示に従って電池を入れる



※ 電池は+端子側を先に入れてください

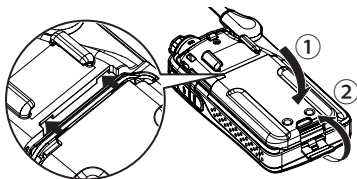


- ◆ 電池のプラス (+) とマイナス (-) の向きを間違えて挿入すると、本機は動作しません。また、故障の原因になりますのでご注意ください。
- ◆ UPB-5N 用逆差し防止機構を設けていますが、反対向きに無理に差し込むと、本機が故障することがあります。



- ◆ 使用する電池の種類によって、バッテリー種別設定を変えてください。お買い上げ時の設定は「アルカリ乾電池」です。
 << 「電池について」 ➡ p.17 >>
 << 「バッテリー種別設定」 ➡ p.66 >>

3 電池カバーのツメを本体の溝に入れてカバーを取り付け、ロックする



- 電池の取り付け、取り外しの際は爪や指を傷めないよう十分ご注意ください。
- 防水規格に準拠するため、電池カバーは必ず取り付けてください。また、電池カバーの取り付けの際は浮き、隙間が出ないようにご注意ください。

バッテリーパック UPB-5N の充電のしかた

- バッテリーパック UPB-5N を本機に取り付けた状態で充電することができません。
- 使用できる充電器は、UBC-2 (ツインチャージャー) または UBC-10 (シングルチャージャー) です。
- 充電しながら本機を使用することはできません。必ず本機の電源を切ってください。
- 必ず専用のバッテリーパック、充電器、AC アダプターを使用して充電してください。指定以外の機器を用いて充電すると故障の原因になります。

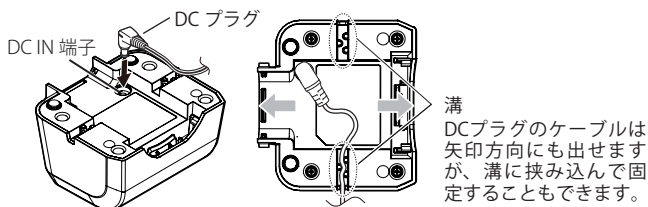
バッテリーパックの充電時間の目安

充電時間の目安は、約 130 分です。

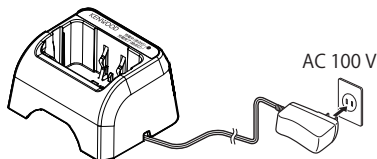
UBC-10を使った充電方法

- UBC-2 を使った充電方法は UBC-2 の取扱説明書をご覧ください。
- UBC-10 は充電台を連結して、複数の充電台で同時に充電することができます。連結方法については UBC-10 の取扱説明書をご覧ください。

1 ACアダプターのDCプラグを充電器の底面にあるDC IN端子に差し込む



2 ACアダプターをコンセントに差し込む



次のページへつづく

3 バッテリーパックを装着した本機を充電器に挿入する

- LED が赤点灯して充電が開始されます。
- 本機が充電器に対し斜めに挿入されていると充電動作に問題が発生する場合があります。本機は充電器に対しまっすぐに挿入してください。

4 充電が完了したら、本機を充電器から抜く

- 充電が完了すると、充電インジケータが緑色に点灯します。



充電状態

LED の色	状態
赤点灯	充電中であることを表します。
赤点滅または点灯しない	・ バッテリーパック、または電池カバーが正しく取り付けられていない場合があります。再度取り付けなおしてください。 ・ 充電端子が接触不具合をおこしている場合があります。充電器と本機が接触する端子および本機とバッテリーパックが接触する端子を綿棒や乾いた布で拭いてから再度充電してください。 それでも改善しない場合は、バッテリーパック、または充電器に何らかの不具合があります。直ちに充電を中止して、お買い上げの販売店、または JVC ケンウッド カスタマーサポートセンターにご相談ください。
緑点灯	充電が完了したことを表します。
緑と橙が交互に点灯	バッテリーパックの温度が充電温度範囲外になっています。一度、本機を充電器から抜き、バッテリーパックが常温になってから再度充電器に挿入してください。

オプション機器を接続する



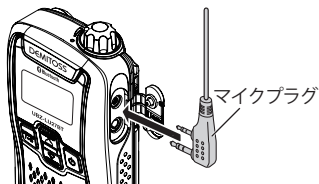
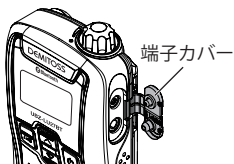
- ◆ オプション機器を接続するときは、必ず電源をオフにしてください。電源を入れたままオプション機器を接続すると、故障の原因となります。
- ◆ 端子カバーが正しく取り付けられていないと防水性能は保証できません。オプション機器を使用しないときは、端子カバーが正しく取り付けられていることを確認してください。また、オプション機器を接続した場合は防水性能の保証はできません。
- ◆ 断線防止のため、オプション機器を取り外すときは、プラグを持って取り外してください。

1 本機の電源をオフにする

2 端子カバーを開く

3 オプション機器のマイクプラグをスピーカー/マイク端子に接続する

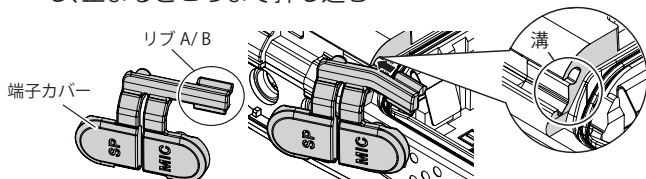
4 電源を入れる



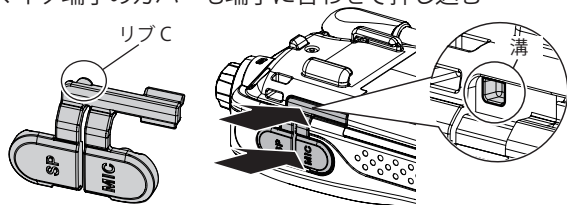
端子カバーが外れたときの取り付け方

1 電池カバーを外す

2 端子カバーのリブA/Bを無線機本体の溝に合わせて挿入し、止まるところまで押し込む



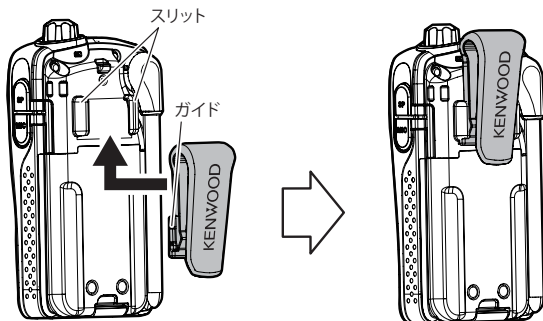
3 端子カバーのリブCを溝に合わせて押し込み、スピーカー/マイク端子のカバーも端子に合わせて押し込む



ご使用前に

ベルトフックを取り付ける

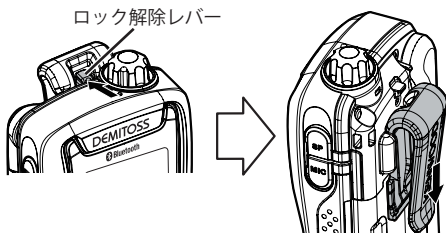
付属のベルトフックは縦向きに取り付けます。ベルトフックの裏のガイドを本体背面のスリットに合わせて、「カチッ」と音がしてしっかりとロックするまで上側へスライドさせてください。



- ◆ スリットとガイドにゴミが付着していると、ベルトフックが取り付けづらくなります。取り付ける際にはゴミを挟んでいないか、ご確認ください。

ベルトフックの取り外し

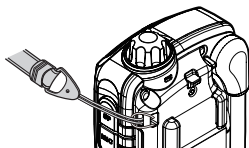
ベルトフックのロック解除レバーを矢印方向に押しながら、ベルトフックを下側へスライドさせます。ベルトフックの裏のガイドが本体のスリットから外れたら、ベルトフックを取り外すことができます。



- ◆ ベルトフックを取り外す際は、爪や指を傷めないよう十分ご注意ください。

ストラップを取り付ける

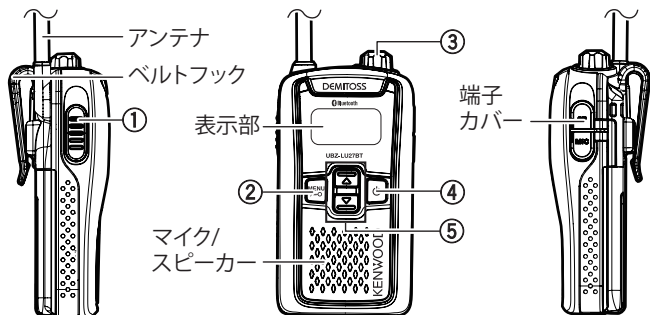
オプションのネックストラップ SB-4 や市販品のストラップを取り付けるときは、本機背面上部のストラップ用穴を使用してください。



- ◆ ストラップを持って本機を振り回したりしないでください。故障やけがの原因となります。

各部の名称と機能

各キーの機能



① 【PTT】キー

送信するときに押します。離すと待ち受け状態になります。

② 【MENU】キー

- 押すと簡易メニューを表示します。《 ➡ p.35 》
- 押しながら電源をオンにすると、機能設定メニューが表示されます。《 ➡ p.38 》
- 長押し (1 秒以上) するごとに、キーロックをオン/オフします。長押しの秒数は「キーロック長押し時間設定」により 5 秒まで延長できます。《 ➡ p.52 》

③ 音量つまみ

右に回す：音量を大きくします。

左に回す：音量を小さくします。

④ 【】キー

0.5 秒以上押すごとに電源をオン/オフします。

次のページへつづく

⑤ 【▲】【▼】キー

【▲】：チャンネル変更 (UP) します。長押し (1 秒以上) すると、連続してチャンネルが変わります。

【▼】：チャンネル変更 (DOWN) します。長押し (1 秒以上) すると、連続してチャンネルが変わります。

- メニューのオートチャンネルセレクトキー設定 “ACS” が “on” に設定されているときは、1 秒以上押すとオートチャンネルセレクトを開始します。《 ◀ p.46 ▶ 》

表示部のアイコン一覧



表示	説明	関連ページ
	電池の残量 (目安) が表示されます。	p.18
	: 満充電	
	: 交換・充電準備してください	
	: 早めに交換・充電してください	

各部の名称と機能

表示	説明	関連 ページ
秘	ボイススクランブル機能を“on”に設定しているときに表示されます。＜秘話アイコン＞ 送受信時に、他人に通信内容が容易に知られないようにします。	p.36
	キーロック機能が働いているときに表示されます。 操作キーが意図せず何かに触れての誤操作を防ぎます。	p.52
VOX	VOX 機能をオンに設定しているときに表示されます。 ヘッドセットやイヤホンマイクが接続されているときに、【PTT】を押さずに音声入力により送信が開始されます。	p.55
	送信中に表示されます。＜送信アイコン＞	—
	受信中表示されます。＜受信アイコン＞	—
—	PTT ホールドを“on”に設定しているときに＜送信アイコン＞の下に表示されます。（送信中は点滅します） 【PTT】を押したあと、手を離しても送信を継続し、簡易的なハンズフリー通信ができます。	p.61
グループ 	設定したグループ番号と異なるグループ番号の信号が受信されたときに表示されます。 グループ番号を相手と合わせるか、他のチャンネルに変更してください。	p.51

次のページへつづく

表示	説明	関連 ページ
	運用モードを中継器アクセスモード (セミデュプレックス) に設定したときに表示されます。 (UBZ-LU27/ UBZ-LU27BTのみ)	p.34
	機能設定時、設定項目を選択中に表示されます。	—
	機能設定時、設定値を選択中に表示されます。	—
	チャンネル、機能設定項目が表示されます。	—
	グループ番号、設定値が表示されます。	—
	Bluetooth ヘッドセットが接続されているときに表示されます。登録された Bluetooth ヘッドセットが見つからない場合は点滅します。 Bluetooth 機能を “on” に設定し、Bluetooth 機器ペアリング設定にて Bluetooth ヘッドセットを登録してください。 (UBZ-LU27BTのみ)	p.74 p.75

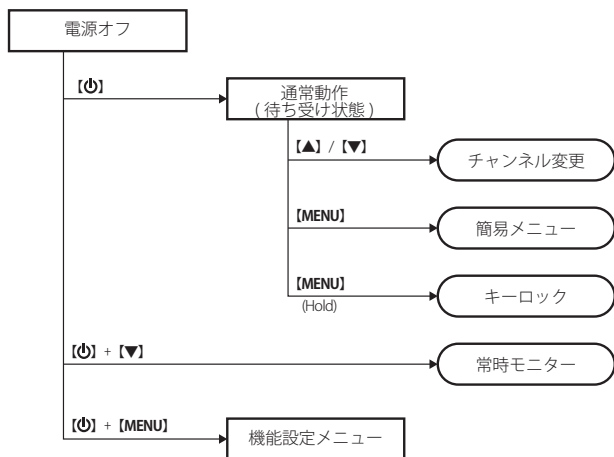
各キーの動作図

本機の電源がオフの状態から各キーを操作したときの動作です。

【**⏻**】：本機のキー

【**⏻**】 + 【**⏻**】：対象のキーを同時に押す

(Hold)：キーの長押し



基本操作

基本操作一覧

操作	操作部位	説明	参照 ページ
電源をオン/ オフする	【 ⏻ 】 キー	0.5 秒以上押すごとに電源をオン / オフ します。	-
送信する	【 PTT 】 キー	このキーを押している間、通話ができ ます。	-
チャンネル を変更する	【 ▲ 】 キー	チャンネル変更 (UP) します。機能が設 定されていない場合は、長押し (1 秒以 上) すると連続してチャンネルが変わ ります。	-
	【 ▼ 】 キー	チャンネル変更 (DOWN) します。機能 が設定されていない場合は、長押し (1 秒以上) すると、連続してチャンネル が変わります。	-
音量を調節 する	音量 つまみ	右に回す：音量を大きくします。 左に回す：音量を小さくします。 	-
簡易メニュー を表示する	【 MENU 】 キー	簡易メニューが表示され、グループ番 号、ボイススクランブルを設定できま す。	p.35
キーロック をオン / オ フする		長押し (1 秒以上) すごとに、キーロ ックをオン / オフします。長押しの秒数 は、キーロック長押し時間設定により 5 秒まで延長できます。	p.52
機能設定メ ニューを表 示する	【 ⏻ 】 キー + 【 MENU 】 キー	本機の電源がオフになっている状態 で、【 ⏻ 】 キーと 【 MENU 】 キーを同時 に押します。	p.38

運用モードの設定 UBZ-LU27/ UBZ-LU27BTのみ



◆ 初期値では、“SP” (シンプレックスモード) に設定されています。

1 【**⏻**】を押し、一度電源を切る

2 【MENU】を押しながら【**⏻**】を押し、電源を入れる
設定項目が点滅した状態で表示されます。

3 【**▲**】または【**▼**】を押し、“mod”を選択する



設定項目 (点滅)

4 【MENU】を押す

設定項目が確定して、設定値が点滅します。

5 運用モードを選択する

SP	交互通話モード (シンプレックス) で通信します。
SdP	中継器アクセスモード (セミデュプレックス) で通信します。



設定値 (点滅)

- “SdP” に設定すると、“**中継**”が表示されます。

6 【MENU】を押す

設定値が確定して、設定項目選択に切り替わります。

7 【MENU】を1秒以上押す

メニューが終了します。

- 【PTT】 を押しても終了します。

簡易メニュー

グループ番号とボイススクランブル機能の設定をします。

グループ番号が“oFF”以外に設定されている場合、【MENU】を押すことで設定する機能が切り替わります。

(待ち受け画面▶「GRP」▶「SCR」▶待ち受け画面)

グループ番号の設定

グループ番号を“oFF”に設定している場合、他のグループと同じチャンネルで通信すると、お互いの声が混ざり合って通信しづらくなります。仲間同士でグループ番号を設定しておく、他のグループの音声が届くことなく通信ができます。

1 【MENU】を押して、“GRP”を選ぶ

待ち受け状態のときに【MENU】を押すと、“GRP”が表示されます。

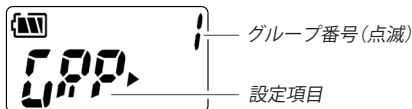
2 【▲】または【▼】を押す

グループ番号が切り替わります。

設定範囲

oFF、1～38

- 【▲】または【▼】を押し続けると、押している間連続してグループ番号が切り替わります。



3 【PTT】を押す

設定を確定して簡易メニューが終了します。

または10秒間何もキーを操作しなくても、設定を確定して簡易メニューが終了します。

- グループ番号が“oFF”のときは、【MENU】を押しても終了します。

ボイススクランブル(秘話)機能の設定

グループ番号を設定するとボイススクランブル機能を使用できます。
他人に通信内容を知られたくないときに設定します。

ボイススクランブル機能を“on”にすると、他のグループの人が同じグループ番号に設定しても通信内容が聞き取りにくくなります。



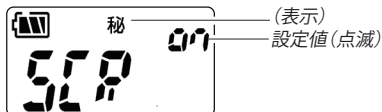
- ◆ グループ番号とチャンネル番号、ボイススクランブル機能の設定が一致すると、第三者のトランシーバーでも通信を傍受できるため、ご注意ください。

1 グループ番号を“oFF”以外に設定したら、【MENU】を押して、“SCR”を選ぶ

2 【▲】または【▼】を押す

設定値を選択します。

oFF	ボイススクランブル機能が動作しません。
on	ボイススクランブル機能が動作します。



- “on”に設定すると“秘”が表示されます。

3 【PTT】を押す

設定を確定して簡易メニューが終了します。
または 10 秒間何もキーを操作しなくても、設定を確定して簡易メニューが終了します。

- 【MENU】を押しても終了します。



- ◆ 他のグループが同じチャンネル番号を使用している場合、音声は聞こえなくても受信状態になり、＜受信アイコン＞を表示します。このときに【PTT】を押しても「プー」と鳴って送信できません。詳しくは≪「グループ番号不一致通知」➡ p.51 ≫をご覧ください。
- ◆ 運用モードを中継器アクセスモード（セミデュプレックス）に設定しているときは、チャンネル番号とグループ番号は中継器の設定と同じにします。**（UBZ-LU27/UBZ-LU27BTのみ）**
- ◆ チャンネル番号、グループ番号、ボイススクランブルの設定は通信する相手のトランシーバーと設定を合わせてください。すべての設定が合っていないと通信ができません。
- ◆ グループ番号を“oFF”に設定すると、ボイススクランブル機能も“oFF”になります。
- ◆ バッテリーセーブ機能が働いているときに、同じグループを受信すると、バッテリーセーブ機能は自動的に解除されますが、違うグループを受信している場合は、バッテリーセーブ機能は解除されません。このときに受信信号の確認動作を繰り返すため、＜受信アイコン＞が点滅することがあります。

機能設定メニュー

各機能の設定をします。(グループ番号とボイススクランブル(秘話)機能の設定以外)

機能設定のしかた



- ◆ キーロック状態のまま電源を切った場合、機能設定メニューが表示されず、待ち受け状態となります。キーロックを解除してから、機能設定を行なってください。
 《「キーロックを解除する」▶ p.53》

1 【**ON**】を押し、一度電源を切る

2 【MENU】を押しながら【**ON**】を押し、電源を入れる
設定項目が点滅した状態で表示されます。



3 【**▲**】または【**▼**】を押し

押すごとに設定項目が切り替わります。



4 【MENU】を押し

設定項目が確定して、設定値が点滅します。

5 【**▲**】または【**▼**】を押し

設定値を選択します。



次のページへつづく

6 【MENU】を押す

設定値が確定して、設定項目選択に切り替わります。

7 【MENU】を1秒以上押す

メニューが終了します。

- 【PTT】を押しても終了します。

設定項目一覧

表示	設定項目	設定値	初期値	参照 ページ
bEP	ビープ音 (<u>B</u> eep)	oFF/on	on	p.70
bty	バッテリー種別 (<u>B</u> attery <u>T</u> ype)	AL/ni (AL: <u>A</u> lkali、ni: <u>N</u> ickel)	AL	p.66
APo	オートパワーオフ (<u>A</u> uto <u>P</u> ower <u>O</u> ff)	oFF/on	oFF	p.65
ACS	オートチャンネルセ レクトキー (本機) (<u>A</u> uto <u>C</u> hannel <u>S</u> elect)	oFF/on	oFF	p.46
t-i	送信禁止 (<u>T</u> X <u>I</u> nhibit)	oFF/on	oFF	p.60
Vo	VOX レベル (<u>V</u> ox <u>L</u> evel)	oFF/1/2/3/4/5	oFF	p.55
Vdy	VOX 遅延時間 (<u>V</u> ox <u>D</u> elay)	03/05/10/15/30	05	p.56
PHd	PTT ホールド (<u>P</u> TT <u>H</u> old)	oFF/on	oFF	p.61
R-t	PTT ホールド自動復帰 (PTT Hold <u>R</u> e- <u>T</u> ransmit)	oFF/on	oFF	p.62
Ctn	コールトーン音色 (<u>C</u> all <u>T</u> one)	1/2/3/4/5/6/7/8/ 9/10	1	p.50

次のページへつづく

基本操作

表示	設定項目	設定値	初期値	参照 ページ
SQL	スケルチレベル (<u>S</u> quelch <u>L</u> evel)	oFF/1/2/3	2	p.71
LUd	ラウドネス (<u>L</u> oud <u>n</u> ess)	oFF/on	oFF	p.72
SAV	バッテリーセーブ (Battery <u>S</u> ave)	oFF/on/EC <u>o</u>	on	p.63
EC <u>o</u>	エコモード動作 (<u>E</u> co Mode)	n/H (n: <u>N</u> ormal、H: <u>H</u> igh)	n	p.64
REm	リモコンキー (<u>R</u> emocon Key)	oFF/on	oFF	p.73
LoC	キーロック長押し時間 (Key <u>L</u> ock)	1/2/3/4/5	1	p.52
C--	チャンネル非表示 (<u>C</u> hannel -- Display)	oFF/on/LoC	oFF	p.69
bLt	バックライト動作 (<u>B</u> acklight)	oFF/ACt/Any/on (ACt: <u>A</u> ction、 Any: <u>A</u> ny Action)	ACt	p.67
ton	通話告知音 (Call Announcement <u>T</u> one)	UBZ-LU20:oFF/on UBZ-LU27/ UBZ-LU27BT:oFF/ SdP/ALL (SdP: <u>S</u> emi- <u>D</u> uplex)	LU20: oFF LU27/ LU27BT: SdP	p.58
P-R	通話告知音動作 (<u>P</u> roceed- <u>R</u> elease)	P-/R/P-R (P: <u>P</u> roceed、R: <u>R</u> elease)	P-	p.59
hCH	チャンネル番号切替 (<u>"h"</u> Channel(<u>C</u> H) Display)	oFF/on	oFF	p.68
tPw ※ 1	送信パワー (<u>T</u> X <u>P</u> ower)	L/H (L: <u>L</u> ow、H: <u>H</u> igh)	H	p.57

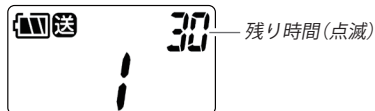
次のページへつづく

表示	設定項目	設定値	初期値	参照 ページ
mod ※ 1	運用モード (Operation <u>M</u> ode)	SP/SdP (SP: <u>S</u> implex、 SdP: <u>S</u> emi- <u>D</u> uplex)	SP	p.34
bt ※ 2	Bluetooth 設定 (<u>B</u> lue <u>t</u> ooth Function)	oFF/on	oFF	p.74
PAR ※ 2	Bluetooth ペアリング (Bluetooth <u>P</u> airing Mode)	-	-	p.75
btm ※ 2	Bluetooth マイク入力 切替設定 (<u>B</u> lue <u>t</u> ooth <u>M</u> icrophone Type)	bt/noR	bt	p.78
bRS ※ 2	Bluetooth 初期化 (<u>B</u> lue <u>t</u> ooth <u>R</u> eset)	-	-	p.79

※ 1 (UBZ-LU27/ UBZ-LU27BTのみ)

※ 2 (UBZ-LU27BTのみ)

通信時間の制限について



本機の1回の通信時間は、送信・受信を合わせて3分間です。通信終了の30秒前になると、表示部の数字が点滅しながらカウントダウンを始めます。10秒前になると「ピッ」と予告音が鳴り、3分を経過すると送信禁止音「プー」とともに送信を停止し、待ち受け状態に戻ります。続けて通信するときは、送信停止2秒後に【PTT】を押して相手を呼び出してください。

- 中継器アクセスモード(セミデュプレックス)で送信パワーを“L”に設定している場合は、通信時間の制限はありません。
 <<「送信/パワー設定」➡ p.57 >>
- PTT ホールド設定を“on”に設定している場合は、通信時間の3分を経過すると無音で送信を停止します。
 <<「PTT ホールド設定」➡ p.61 >>

交互通話モード(シンプレックス)での通信操作

交互通話モード(シンプレックス)で通信する場合の基本通信手順です。

- 中継器アクセスモード(セミデュプレックス)のトランシーバーとは通信できません。
- 中継器アクセスモード(セミデュプレックス)での通信操作は
 ≪ p.45 ≫をご覧ください。 (UBZ-LU27/UBZ-LU27BTのみ)

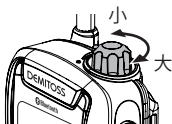
1 【】を押す(0.5秒以上)

電源が入ると、起動音が鳴り、チャンネル番号が表示されます。

2 音量つまみを半分ぐらい右または左に回し、音量を調整する

右に回す：音量が大きくなります。

左に回す：音量が小さくなります。



3 【▲】【▼】を押して通信するチャンネル番号に切り替える

【▲】を押すとチャンネル番号が上がります。

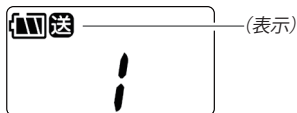
【▼】を押すとチャンネル番号が下がります。



【▲】または【▼】を押し続けると、押している間連続してチャンネル番号が切り替わります。

4 【PTT】を押しながら話す

＜送信アイコン＞が表示され、送信状態になります。



マイク部から口を 5 cm ぐらい離してお話してください。

5 話し終わったら、【PTT】から指を離す

待ち受け状態になります。

受信すると＜受信アイコン＞が表示され、相手の音声聞こえます。



音量つまみを回し好みの音量に調整してください。

6 手順4と5の操作を繰り返して、通信する

本機を使用しないときは【】を押し (0.5 秒以上) 電源を切ります。



- ◆ 設定したチャンネル番号がすでに使用されている場合、相手のトランシーバーと共に、他のチャンネル番号を設定してください。
- ◆ トランシーバー間の距離が近い (10 m 以内) と「18 (h7) と 1」、「19 (h8) と 2」、「20 (h9) と 3」のチャンネル間で混信をおこす場合があります。多数のグループが近距離で通信する場合は、12 (h1) ～ 20 (h9) または 1 ～ 11 チャンネル内で通信するか、グループ番号を設定して混信を軽減してください。詳しくは《「グループ番号の設定」 ▶ p.35 》をご覧ください。
- ◆ 本機の 1 回の通信時間は、送信・受信を合わせて 3 分間です。通信終了の 30 秒前になると、右上文字表示部の数字が点滅しながらカウントダウンを始めます。詳しくは《「通信時間の制限について」 ▶ p.42 》をご覧ください。

中継器アクセスモード(セミデュプレックス)での 通信操作 UBZ-LU27/ UBZ-LU27BTのみ

最初に中継器に接続してから、相手を呼び出して通信します。

- 双方のチャンネル番号とグループ番号を中継器のチャンネル番号とグループ番号に合わせておきます。

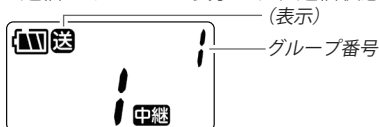
1 【PTT】を押し続ける

中継器へのアクセスを確認します。

- アクセス成功音「ブルッ」が鳴ったら【PTT】を押したままで、手順2へ移ってください。
- アクセスエラー音「プッププッ…」が鳴ったら手順1の操作を繰り返します。

2 【PTT】を押しながら話す

＜送信アイコン＞が表示され、送信状態になります。



マイク部から口を5 cm ぐらい離してお話してください。

- 途中、中継器とのアクセスが外れてアクセスエラー音が鳴ったら、再度手順1から操作してください。

3 話し終わったら、【PTT】から指を離す

待ち受け状態になります。

受信すると＜受信アイコン＞が表示されます。



4 音量つまみを回して好みの音量に調整する

手順2と3の操作を繰り返して、通信します。

基本機能

オートチャンネルセレクト

チャンネル番号を選択することなく、自動的に同じグループ番号のトランシーバーと通信する機能です。同じグループ番号で使用されているチャンネルを見つけると、そのチャンネルを受信します。また、オートチャンネルセレクト中に【PTT】を押して送信すると、空いているチャンネルで送信します。

オートチャンネルセレクトキー設定

この機能を“on”に設定し、本機の【▲】、【▼】を1秒以上押すとオートチャンネルセレクトが動作します。



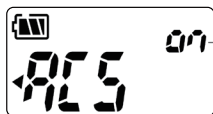
- ◆ オプションのリモコン対応マイクロホンからオートチャンネルセレクト機能を動作したい場合は、リモコンキー設定を“on”に設定してください。◀ p.73 ▶

1 機能設定項目を表示し、“ACS”を選択する

◀ 「機能設定のしかた」 p.38 ▶

2 【▲】または【▼】を押し、設定値を選択する

oFF	本機の【▲】、【▼】ではオートチャンネルセレクトは動作しません。
on	本機の【▲】、【▼】でオートチャンネルセレクトが動作します。



設定値 (点滅)



- ◆ 運用モードが中継器アクセスモード (セミデュプレックス “SdP”) に設定されている場合、オートチャンネルセレクトの設定に関わらず、本機の【▲】、【▼】ではオートチャンネルセレクトは動作しません。

3 メニューを終了する

オートチャンネルセレクトを使う

オートチャンネルセレクトを使用する前に以下の設定を確認します。

- グループ番号の設定を「1～38」に設定する。《 ➡ p.35 》
- 本機の【▲】、【▼】を使用するとき：
オートチャンネルセレクトキー設定を“on”に設定する。《 ➡ p.46 》
- オプションのリモコン対応マイクロホンを使用するとき：
リモコンキー設定を“on”に設定する。《 ➡ p.73 》



◆ 運用モードの設定《 ➡ p.34 》が“SdP”のときは、オートチャンネルセレクトキーは動作しません。

UBZ-LU27/ UBZ-LU27BTのみ

- 1 本機の【▲】、【▼】を1秒以上押す、またはオプションのリモコン対応マイクロホンのリモコンキー【2】を1秒以上押す
“ACS”と表示され、オートチャンネルセレクトを開始します。



— グループ番号

2 【PTT】を押し続ける

空いているチャンネルで10秒ほど停止します。停止中に【PTT】を押したまま呼びかけます。呼びかけたら【PTT】から指を離し、相手がそのチャンネルで応答してくるのを待ちます。



- ◆ 空いているチャンネルで10秒以上相手からの応答がないと、オートチャンネルセレクトのスキャンを再開します。
- ◆ 相手のトランシーバーも、オートチャンネルセレクトを使用してください。

- 3 相手の応答が終わり<受信アイコン>が消えてから、
【PTT】を押して話し始める

次のページへつづく



- ◆ グループ番号が "oFF" のときは、オートチャンネルセレクトキーは動作しません。
 - ◆ オートチャンネルセレクトはグループの一致する受信信号を検索するため、送信始めの音声を受信端末で途切れやすくなります。【PTT】を押してから、一息おいてから話すことで、その音声途切れを防止することができます。
-

オートチャンネルセレクトを解除する



1 本機の【▲】、【▼】、【MENU】を押す、またはオプションのリモコン対応マイクロホンのリモコンキー【2】を1秒以上押す待ち受け状態に戻ります。



- ◆ オートチャンネルセレクト中にモニター機能◀ p.49 ▶を使用するとスキャンが一時停止して、チャンネルをモニターできます。
-

モニター

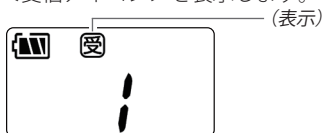
受信信号の状態をモニターできるように、強制的に雑音混じりの弱い信号でも受信できるようにします。また、受信音量を調整するときにも使用できます。

モニターする

1 【⏻】を押し、一度電源を切る

2 【▼】を押しながら【⏻】を押し、電源を入れる

＜受信アイコン＞を表示します。



- 信号を受信していないときは「ザー」という雑音が出ます。音量レベルを調整するときの目安にもなります。



◆ 【▼】と【⏻】を押し、モニター機能をオン（常時モニター状態）にしている場合、以下の動作を行なうとモニター機能がオフになります。

- 本機の電源をオフにする。
- オートチャンネルセレクト動作を開始する。

モニターを解除する

1 【⏻】を押し、一度電源を切る

2 【⏻】を押し、電源を入れる



◆ モニター機能を使用するときは、音量レベルに注意してください。特にイヤホンを使用しているときは、「ザー」というノイズを大きい音量で聞くと耳に障害を受けることがあります。

リモコン対応マイクロホンからモニター状態にする

オプションのリモコン対応マイクロホンが接続され、リモコンキー設定が“on”に設定されている場合に使用できます。《 ➡ p.73 》

1 オプションのリモコン対応マイクロホンのリモコンキー【1】を押す

リモコンキー【1】を押している間だけモニター状態になり、リモコンキー【1】を離すとモニター状態が解除されます。

コールトーン呼び出し

相手を電話の呼び出し音のような音(コールトーン)で呼び出すことができます。コールトーンは6種類から選択できます。また、4種類のメロディートーンも選択できます。

コールトーン音色設定

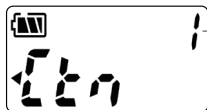
コールトーンとして送出する音色を変更できます。

1 機能設定項目を表示し、“Ctn”を選択する

《「機能設定のしかた」➡ p.38 》

2 【▲】または【▼】を押し、コールトーン音色を選択する

1 ~ 6	コールトーン 1 ~ 6
7 ~ 10	メロディートーン 1: トルコ行進曲 メロディートーン 2: エリーゼのために メロディートーン 3: ボレロ メロディートーン 4: ロンドン橋落ちた



— 設定値 (点滅)

3 メニューを終了する

本機のキーでコールトーン呼び出しをする

1 【PTT】を押したまま【▲】を押す

押している間コールトーンが送信されます。

リモコン対応マイクロホンのリモコンキーを押して、コールトーン呼び出しをする

- オプションのリモコン対応マイクロホンが接続され、リモコンキー設定が“on”に設定されている場合に使用できます。《 ◀ p.73 》

1 オプションのリモコン対応マイクロホンのリモコンキー【3】を押す

押している間コールトーンが送信されます。

- 【PTT】を押したままリモコン対応マイクロホンのリモコンキー【3】を押しても送信されます。



- ◆ 中継器アクセスの動作開始時は、中継器アクセスが成功するまでコールトーンは送信されません。
- ◆ キーロックが動作しているときもコールトーン呼び出しをすることができます。

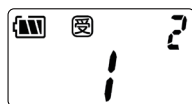
グループ番号不一致通知

グループ番号を設定している際に、グループ番号が一致しない相手から受信があると、“**グループ外**”が表示されます。

受信音声聞こえない状況で、グループ番号の不一致が原因であることを視覚的に分かりやすくするための機能です。

受信側の設定
グループ番号
“2”に設定

グループ番号“2”を受信



受信音声：聞こえる

グループ番号“10”を受信



受信音声：聞こえない

次のページへつづく

基本機能



- ◆ 下記の状況では、グループ番号不一致通知は表示しません。
 - モニター機能動作中
 - チャンネル非表示中

キーロック

間違えてチャンネル番号やグループ番号を変えないように、キーをロックしておくことができる機能です。

キーロック長押し時間設定

【MENU】を押してキーロックが作動 / 解除するまでの時間を設定できます。

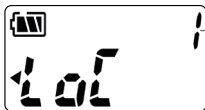
1 機能設定項目を表示し、“LoC”を選択する

≪「機能設定のしかた」➡ p.38 ≫

2 【▲】または【▼】を押し、長押し時間を選択する

1～5

1 秒～5 秒



設定値 (点滅)

3 メニューを終了する

キーロックをする

- 1 【MENU】を、キーロック長押し時間設定で設定した時間以上押し続ける

キーロックが動作します。キーロック中は“**🔒**”を表示します。



キーロック中でも以下のキー操作はできます。

- 【**🔘**】 (電源をオフにする)
- 【**▲**】+【**▼**】+【**🔘**】 (オールリセット)
- 【**▼**】+【**🔘**】 (モニター)
- 【PTT】 (送信)
- 【PTT】+【**▲**】 (コールトーン送出)
- オプションのリモコン対応マイクロホンのリモコンキー【1】 (モニター)
- オプションのリモコン対応マイクロホンのリモコンキー【3】 (コールトーン送出)



- ◆ キーロックに連動して表示を消すこともできます。
 << 「チャンネル非表示設定」▶ p.69 >>

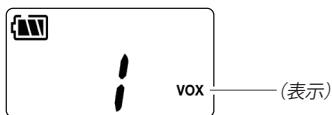
キーロックを解除する

- 1 【MENU】を設定した時間以上、長押しする
- キーロックが解除され、“**🔒**”が消灯します。

VOX

VOX 対応オプションのヘッドセットやイヤホンマイクを接続していると、【PTT】を押さなくても、オプションのマイクロホンに向かって話すだけで自動送信されます。話をやめると自動で待ち受け状態になります。

- VOX 送信中に【▲】/【▼】で VOX レベルを変更することもできます (オフにはできません)。



- VOX レベルを "1 ~ 5" に設定すると "VOX" を表示します。



- ◆ 本機単体でも VOX 機能は動作しますが、ヘッドセットやイヤホンマイクを接続せず VOX 機能を使用すると、周囲の音で誤送信したり、受信した音声により誤送信したりしてしまいます。誤送信を防ぐために、必ずヘッドセットまたはイヤホンマイクを接続してから VOX 機能を使用してください。

VOXレベル設定

周りの環境や声の大きさによって、VOX 機能使用時のオプションのマイクロホンが感知する音声レベルを設定できます。声に合わせてスムーズに送受信が切り替わるように設定してください。

1 機能設定項目を表示し、“Vo”を選択する

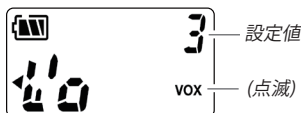
≪「機能設定のしかた」➡ p.38 ≫

2 【▲】または【▼】を押し、VOXレベルを選択する

oFF	VOX 機能はオフになります。
1 ~ 5	VOX 機能がオンになり、数値が大きいほどマイクロホンの感度が上がります。



- 1 ~ 5 に設定しているときは、VOX レベル設定画面と VOX 遅延時間設定画面≪ ➡ p.56 ≫でマイクロホンに向かって話して、声の大きさが設定レベルに達すると“VOX”が点滅します。VOX レベル設定の目安にします。(設定画面では送信されません。)



3 メニューを終了する



- ◆ 送信禁止設定が“on”のときは、VOX 機能は動作しません。
≪ ➡ p.60 ≫

VOX遅延時間設定

VOX 機能使用時に音声の最後が送信されない場合があります。このような場合は遅延時間を設定すると、話をやめたあと設定した時間は送信を継続するため、音声が続切れることを防ぐことができます。

1 機能設定項目を表示し、“Vdy”を選択する

≪「機能設定のしかた」➡ p.38 ≫

2 【▲】または【▼】を押し、遅延時間を選択する

0.3 秒 (03) から 3.0 秒 (30) の間で設定します。

03/05/10/15/30

数字が大きいくほど遅延時間が長くなります。



3 メニューを終了する



- ◆ VOX 機能を使用する場合は対応するオプションを使用してください。(≪「オプション一覧」➡ p.80 ≫で<VOX 対応>と記載されている製品)
- ◆ VOX 機能は確認音が鳴っているとき、コールトーンが鳴っているとき、およびモニター機能使用時は使用できません。
- ◆ 信号を受信しているときは、送信できません。
- ◆ VOX 送信では話し始めても送信するまで時間がかかるため、音声の最初が途切れる場合があります。このようなときは、送信開始のみ【PTT】を押して行なうこともできます。
 - 【PTT】を離しても、VOX 遅延時間設定で設定している時間、送信を継続します。

その他機能

通信に関する設定

送信パワー設定 (UBZ-LU27/UBZ-LU27BTのみ)

中継器アクセスモード (セミデュプレックス) の 1ch ~ 18ch では、送信出力を下げることで、通信時間制限を超えた連続送信ができます。送信出力を“L”に設定すると送信がローパワーの約 1 mW になり、“H”に設定にすると送信がハイパワーの約 10 mW になります。

- 運用モードの設定 << p.34 >> を “SdP” に設定しておきます。
- 連続送信を行なうには、中継器 (UBZ-RJ27) の送信パワー設定を “L” に設定することが必要です。

1 機能設定項目を表示し、“tPw”を選択する

<< 「機能設定のしかた」 << p.38 >>

2 【▲】または【▼】を押し、設定値を選択する

L	送信出力を約 1 mW にします。 (タイムアウトタイマーによる通信時間の制限がなくなります。)
H	送信出力を約 10 mW にします。



設定値 (点滅)

- “L” に設定すると、チャンネル番号の左に “L” と表示されます。



3 メニューを終了する



- ◆ 中継器アクセスモード (セミデュプレックス) の 19ch ~ 27ch や交互通話モード (シンプレックス) では送信出力を下げることはできません。

通話告知音設定

通話告知音は、「通話開始告知音」と「通話終了告知音」の2種類があります。

通話開始告知音

【PTT】を押して送信したときに、通話が可能な状態になったことを送信者に音で知らせる機能です。通話の頭切れを防ぐために使用します。また、受信者がバッテリーセーブ機能を使用していると、受信するまでの時間がかかることがあるため、送信者が音声通話開始タイミングを調整します。

通話終了告知音

送信者が【PTT】を離して送信を終了したことを、受信者に音で知らせる機能です。受信者は、送信者が送信を終了したことが音でわかるため、返事をするタイミングがつかみやすくなります。

通話告知音出力設定

1 機能設定項目を表示し、“ton”を選択する

≪「機能設定のしかた」➡ p.38 ≫

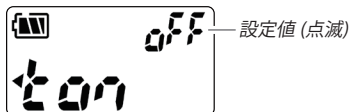
2 【▲】または【▼】を押し、設定値を選択する

UBZ-LU20の場合

oFF	通話告知音は出力しません。
on	通話告知音を出力します。

UBZ-LU27/ UBZ-LU27BTの場合

oFF	通話告知音は出力しません。
SdP	中継器アクセスモード（セミデュプレックス）で運用時に通話告知音を出力します。
ALL	交互通話モード（シンプレックス）/ 中継器アクセスモード（セミデュプレックス）で運用時に通話告知音を出力します。



3 メニューを終了する

通話告知音動作設定

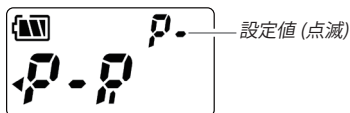
通話告知音の設定で、通話開始告知音と通話終了告知音のどちらを出力するかを設定します。

1 機能設定項目を表示し、“P-R”を選択する

≪「機能設定のしかた」▶ p.38 ≫

2 【▲】または【▼】を押し、設定値を選択する

P-	通話開始告知音を出力します。
-R	通話終了告知音を出力します。
P-R	通話開始告知音と通話終了告知音を出力します。



3 メニューを終了する

送信禁止設定

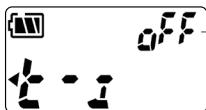
【PTT】を押しても送信させない機能です。本機を受信専用で使用するときに設定します。

1 機能設定項目を表示し、“t-i”を選択する

≪「機能設定のしかた」▶ p.38 ≫

2 【▲】または【▼】を押し、設定値を選択する

oFF	送信動作を許可します。
on	送信動作を禁止します。



oFF — 設定値 (点滅)

3 メニューを終了する

PTTホールド設定

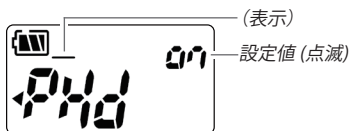
通常は送信するときは【PTT】を押し続けますが、本機能を“on”に設定し【PTT】を一度押すと送信を継続します。送信をやめるときはもう一度【PTT】を押します。

1 機能設定項目を表示し、“PHd”を選択する

≪「機能設定のしかた」▶ p.38 ≫

2 【▲】または【▼】を押し、設定値を選択する

oFF	【PTT】を押し続けると送信状態になり、【PTT】を離すと待ち受け状態になります。
on	【PTT】を押すと送信状態が継続され、再度【PTT】を押すと待ち受け状態になります。



- “on”に設定すると、“—”が表示され、送信中は点滅します。

3 メニューを終了する



- ◆ ヘッドセットやイヤホン付きクリップマイクロホンを接続しているときに PTT ホールド機能を使用する場合は、VOX 対応のオプションを使用してください (≪「オプション一覧」▶ p.80 ≫で< VOX 対応>と記載されている製品)。VOX 対応以外のオプションを使用すると、PTT ホールドで送信しても送信者の音声は相手に聞こえません。
- ◆ Bluetooth 機器の PTT ホールドモードを使用する場合は、本機の PTT ホールド設定は“oFF”にして使用してください。

PTTホールド自動復帰設定

「PTT ホールド」が“on”に設定されている場合、通信時間の制限により通信が終了しても、送信休止時間（2 秒）後に自動で送信を再開する機能です。

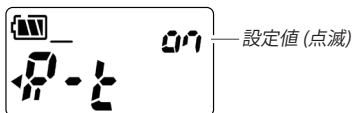
1 機能設定項目を表示し、“R-t”を選択する

≪「機能設定のしかた」➡ p.38 ≫

2 【▲】または【▼】を押し、設定値を選択する

oFF	自動で送信は再開しません。
-----	---------------

on	自動で送信を再開します。
----	--------------



3 メニューを終了する



- ◆ 送信休止時間経過後、使用チャンネルに受信信号がある場合は、送信は再開しません。
 - ◆ 送信休止時間の間にキー操作があった場合は、送信は再開しません。
 - ◆ 中継器アクセスモード（セミデュプレックス）で自動復帰する場合は、送信休止時間経過後に再度中継器にアクセスをします。
 - ◆ PTT ホールド設定が“oFF”のときは、PTT ホールド自動復帰は動作しません。≪ ➡ p.61 ≫
-

バッテリーに関する設定

バッテリーセーブ設定

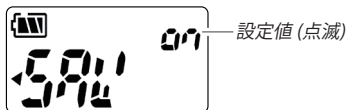
電池の消耗を防ぐ機能です。信号を受信するか、キー操作するとバッテリーセーブは一時的に解除されます。

1 機能設定項目を表示し、“SAV”を選択する

≪「機能設定のしかた」▶ p.38 ≫

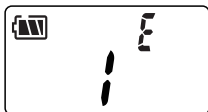
2 【▲】または【▼】を押し、設定値を選択する

oFF	バッテリーセーブ機能は動作しません。
on	待ち受け状態で約 5 秒間キー操作がないと、バッテリーセーブ機能が働きます。
ECo	待ち受け状態で約 2 秒間キー操作がないと、バッテリーセーブ機能が働きます。 バッテリーセーブ機能を“ECo”に設定すると、以下の動作になります。 ● ビープ音は鳴りません。 ただし、一部の警告音、予告音などは鳴ります。 詳しくは、≪「ビープ音設定」▶ p.70 ≫の補足をご覧ください。 ● バックライトは点灯しません。 ● ラウドネス機能は動作しません。



設定値 (点滅)

- “ECo” に設定すると、チャンネル番号の右上に“E”と表示されます。



3 メニューを終了する

次のページへつづく

その他機能



- ◆ バッテリーセーブ “on” または “ECo” 設定時は、消費電力を抑える動作を繰り返しているため、受信や VOX 動作時の音声の始めが途切れる場合があります。音声の途切れが気になる場合は、“oFF” に設定してください。



- ◆ バッテリーセーブ機能が働いているときに、同じグループを受信すると、バッテリーセーブ機能は自動的に解除されますが、違うグループを受信している場合は、バッテリーセーブ機能は解除されません。このときに受信信号の確認動作を繰り返すため、＜受信アイコン＞が点滅することがあります。
- ◆ 簡易メニュー / 機能設定メニューやモニター中、オートチャンネルセレクト中は、バッテリーセーブ機能は動作しません。

エコモード動作設定

バッテリーセーブ設定で、“ECo” に設定しているときのバッテリーセーブの動作レベルを、より電池使用可能時間を伸ばす動作に切り替えることができます。詳しくは、《「電池の使用可能時間の目安」▶ p.18》をご覧ください。

1 機能設定項目を表示し、“ECo”を選択する

《「機能設定のしかた」▶ p.38》

2 【▲】または【▼】を押し、設定値を選択する

n	省電力動作レベルが標準になります。
H	省電力動作レベルが高くなります。



— 設定値 (点滅)

3 メニューを終了する



- ◆ 通信相手のエコモード設定が “H” 設定で省電力動作レベルを高くしていると、送信始めの音声途切れやすくなります。【PTT】を押してから、一息おいて話すようにしてください。

オートパワーオフ設定

この機能を“on”に設定すると、1 時間 59 分の間キー操作をしない場合、電源を切り忘れたとみなして警告音を鳴らします。さらに同じ状態が 1 分間続くと“APo”が点滅して自動で電源を切ります。本機の電源を切り忘れたときの、電池の消耗を防ぎます。

1 機能設定項目を表示し、“APo”を選択する

◀「機能設定のしかた」▶ p.38 ▶

2 【▲】または【▼】を押し、設定値を選択する

oFF	オートパワーオフ機能は動作しません。
on	オートパワーオフ機能が動作します。 操作のない状態が約 2 時間継続すると、自動的に本機の電源をオフにします。



3 メニューを終了する



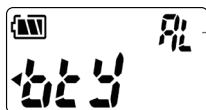
- ◆ オートチャンネルセレクト中は、オートパワーオフ機能は動作しません。

バッテリー種別設定

使用する電池の種類を設定します。

- 1 機能設定項目を表示し、“bty”を選択する
«「機能設定のしかた」▶ p.38 »
- 2 【▲】または【▼】を押し、設定値を選択する

AL	アルカリ乾電池を使用するとき
ni	バッテリーパック UPB-5N を使用するとき



- 3 メニューを終了する

- ◆  設定値を選択するときは、使用する電池の種類に合った設定をしてください。誤った設定にすると、電池の残量表示が正しく表示されません。

表示に関する設定

バックライト動作設定

表示部のバックライトの点灯条件を設定します。



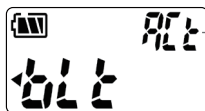
◆ バッテリーセーブ機能を“ECO”に設定しているときは、バックライトは点灯しません。そのため、バックライト動作を設定できません。

1 機能設定項目を表示し、“bLt”を選択する

≪「機能設定のしかた」▶ p.38 ≫

2 【▲】または【▼】を押し、設定値を選択する

oFF	バックライトは常に消灯します。
ACt	【PTT】以外のキーを操作したときにバックライトが5秒間点灯します。
Any	キーを操作したときや信号を送信 / 受信するとバックライトが5秒間点灯します。
on	バックライトが常に点灯します。



— 設定値 (点滅)

3 メニューを終了する

チャンネル番号切替設定

チャンネル番号の表示方法を連番表示ではなく、h 番号 (h1 ~ h9) のチャンネルが混在する従来機の表示にしたい場合に変更します。

1 機能設定項目を表示し、“hCH”を選択する

≪「機能設定のしかた」▶ p.38 ≫

2 【▲】または【▼】を押し、設定値を選択する

oFF	チャンネル番号を連番で表示します。 交互通話 (シンプレックス) : 1 ~ 20 ch 中継器アクセス (セミデュプレックス) : 1 ~ 27 ch
on	従来機の h 番号が混在するチャンネル番号で表示します。 交互通話 (シンプレックス) : 1 ~ 11 ch, h1 ~ h9 ch 中継器アクセス (セミデュプレックス) : 1 ~ 18 ch, h1 ~ h9 ch

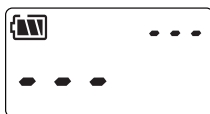


3 メニューを終了する

チャンネル非表示設定

チャンネル番号やグループ番号を表示させない機能です。
他人から使用しているチャンネル番号などを見られたくない場合に設定します。

チャンネル非表示状態



- この機能を“on”に設定している場合は、チャンネル番号を切り替えると、切り替えたチャンネル番号が2秒間表示されます。
- この機能を“on”に設定している場合は、本機の電源をオンにすると現在のチャンネル番号が2秒間表示されます。
- この機能を“LoC”に設定している場合は、キーロック状態で本機の電源をオンにすると現在のチャンネル番号が2秒間表示されます。キーロックされていないときは現在のチャンネル番号が表示された状態になります。

1 機能設定項目を表示し、“C--”を選択する

◀「機能設定のしかた」▶ p.38 ▶

2 【▲】または【▼】を押し、設定値を選択する

oFF	チャンネル番号やグループ番号が表示されます。
on	チャンネル番号やグループ番号が表示されません。
LoC	キーロック時にチャンネル番号やグループ番号が表示されません。◀「キーロック」▶ p.52 ▶



3 メニューを終了する

次のページへつづく



- ◆ チャンネル非表示中は、“秘”、“中継”、“L”（ローパワー送信）、“グループ外”も表示されません。

音に関する設定

ビープ音設定

キーを操作したときに鳴る確認音をビープ音といいます。この機能を“oFF”に設定すると、このビープ音を鳴らさないようにできます。



- ◆ バッテリーセーブが“ECo”に設定されている場合、ビープ音設定に関わらずビープ音は鳴りません。
- ◆ 以下の警告音、予告音などは、ビープ音が“oFF”に設定されていたり、バッテリーセーブが“ECo”に設定されていたりしても鳴ります。
 - 通信時間制限予告音
 - オートパワーオフ警告音
 - レピーターアクセスエラー音
 - 送信禁止音
 - 通話告知音
 - コールトーン
 - バッテリー減電圧警告音

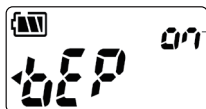
1 機能設定項目を表示し、“bEP”を選択する

≪「機能設定のしかた」▶ p.38 ≫

2 【▲】または【▼】を押し、設定値を選択する

oFF ビープ音は鳴りません。

on ビープ音が鳴ります。



— 設定値 (点滅)

3 メニューを終了する

スケルチレベル設定

スケルチ（雑音などを消去する機能）が解除される（音声が出力される）レベルを設定します。スケルチレベルを下げると弱い電波でも受信しやすくなりますが、雑音（「ザー」という雑音）が多くなります。逆に、スケルチレベルを上げると、弱い電波は雑音として消去するため、強い電波しか受信しなくなります。

1 機能設定項目を表示し、“Sql”を選択する

≪「機能設定のしかた」▶ p.38 ≫

2 【▲】または【▼】を押し、設定値を選択する

oFF	常に受信状態になります（常時モニター）。
1/2/3	数値を下げると、弱い信号でも受信状態になります。数値を上げると、強い信号のみ受信状態になります。



設定値（点滅）

3 メニューを終了する



- ◆ グループ番号を設定している場合は、「スケルチレベル」が“oFF”に設定されていても、グループ番号が一致する信号を受信しなければ、スケルチは解除されず、“グループ外”が表示されます。

ラウドネス設定

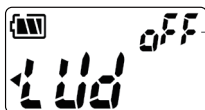
周囲が騒がしく、音量つまみを回して音量を大きくしても、相手の声が聞きとりにくい場合は、ラウドネスを“on”にすると、本機の内蔵スピーカーの音量がより大きくなります。

1 機能設定項目を表示し、“LUd”を選択する

≪「機能設定のしかた」▶ p.38 ≫

2 【▲】または【▼】を押し、設定値を選択する

oFF	ラウドネス機能は動作しません。
on	ラウドネス機能が動作します。



— 設定値 (点滅)

3 メニューを終了する

リモコンキーの設定

リモコンキー設定

オプションのリモコン対応
マイクロホンのリモコン
キー【1】、【2】、【3】の動作を
設定する機能です。

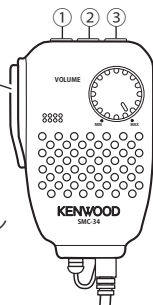
【PTT】キー

①：リモコンキー【1】

②：リモコンキー【2】

③：リモコンキー【3】

スピーカーマイクロホン
SMC-34(G)

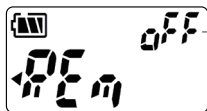


1 機能設定項目を表示し、“REm”を選択する

≪「機能設定のしかた」▶ p.38 ≫

2 【▲】または【▼】を押し、設定値を選択する

oFF	リモコンキーの機能は動作しません。
on	リモコンキーの機能が動作可能になります。



設定値 (点滅)

3 メニューを終了する

その他機能



- ◆ 本機がお買い上げ時の状態のままで、オプションのマイクロホンを接続しただけではリモコンキーは動作しません。
- ◆ スピーカーマイクロホン (SMC-34 (G)) から機能を使用するときは、SMC-34 (G) 背面にあるロックを解除してから使用してください。
- ◆ リモコンキー設定を“on”にして、リモコンキーを押すと以下の機能が動作します。
 - リモコンキー【1】: モニター◀ ➡ p.49 ▶
 - リモコンキー【2】: オートチャンネルセレクト◀ ➡ p.46 ▶
 - リモコンキー【3】: コールトーン呼び出し◀ ➡ p.50 ▶

Bluetooth® に関する設定 UBZ-LU27BTのみ

Bluetooth 設定を“on”に設定することで、Bluetooth 機器を使用できる状態にします。

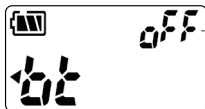
Bluetooth設定

1 機能設定項目を表示し、“bt”を選択する

◀ 「機能設定のしかた」➡ p.38 ▶

2 【▲】または【▼】を押し、設定値を選択する

oFF	Bluetooth 機器は使用できません。
on	Bluetooth 機器を使用できます。



設定値 (点滅)

次のページへつづく



- ◆ Bluetooth 設定が “on” でも、本機に Bluetooth 機器が登録されていない場合、Bluetooth 機器を使用することができません。Bluetooth 機器のペアリングを行なってください。
 ≪「Bluetooth 機器ペアリング設定」▶ p.75 ≫

3 メニューを終了する

Bluetooth機器ペアリング設定

接続可能な Bluetooth 機器を検索し、見つかった Bluetooth 機器を登録・接続します。Bluetooth 設定を “on” にしてからペアリングを行なってください。



- ◆ 本機に登録できる Bluetooth 機器は 1 台のみです。
- ◆ オプションの KHS-55BT (Bluetooth ヘッドセット) が見つかった場合は、KHS-55BT が優先して登録されます。
- ◆ 本機とペアリングされた Bluetooth 機器は、電源を入れると自動的に本機と接続されるようになります。

1 機能設定項目を表示し、“PAR”を選択する

≪「機能設定のしかた」▶ p.38 ≫

2 【MENU】を押す

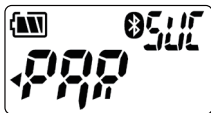
- ペアリングモードが開始されます。
- ペアリングモードの有効時間は 120 秒です。タイムアウトまでの時間が画面に表示されます。



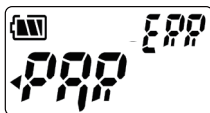
タイムアウトまでの
時間 (秒)

その他機能

- Bluetooth 機器の登録・接続が完了すると、“” と “SUC” (Success) が表示されます。1 秒経過すると、自動的に機能設定項目の選択表示状態に戻ります。



- ◆ Bluetooth 設定が “oFF” に設定されている場合は、無効音が鳴り、ペアリングモードは開始されません。
- ◆ Bluetooth 機器の登録・接続が 120 秒以内に完了しなかった場合は、無効音が鳴り、“ERR” (Error) と表示されます。1 秒経過すると、自動的に機能設定項目の選択表示状態に戻ります。



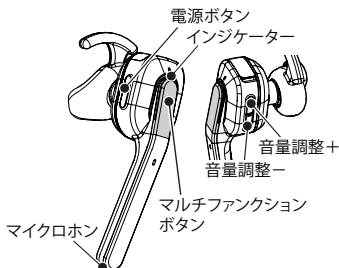
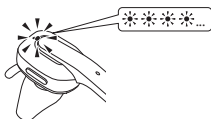
■ KHS-55BT (オプション)のペアリングモード方法

詳細は、KHS-55BT の「取扱説明書」をご覧ください。

1 KHS-55BTの電源ボ

タンをインジケーターが点滅するまで押す (約5秒間)

インジケーターが速く点滅しないときはいったん電源を切って、やり直してください。



2 「ピピピッ、ピピピッ」と鳴ったら、マルチファンクションボタンを押す

ペアリングが完了し、インジケーターがゆっくり点滅します。



- ◆ マルチファンクションボタンは、本機との接続完了後は【PTT】として使用します。

Bluetoothマイクの入力切替設定

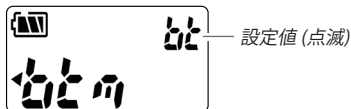
使用するマイク (Bluetooth 機器のマイク、本機内蔵のマイクまたは、オプション機器のマイク) を設定できます。

1 機能設定項目を表示し、“btm”を選択する

≪「機能設定のしかた」▶ p.38 ≫

2 【▲】または【▼】を押し、設定値を選択する

bt	Bluetooth 機器のマイクを使用します。
noR	本機内蔵のマイクまたは、オプション機器のマイクを使用します。



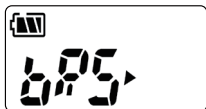
3 メニューを終了する

Bluetoothの初期化

Bluetooth 関連の設定を初期化します。

1 機能設定項目を表示し、“bRS”を選択する

◀「機能設定のしかた」▶ p.38 ▶



2 【MENU】を押す

確認のため、“SUR” (Sure?) と表示されます。



3 Bluetooth初期化確認画面が表示された状態で、【MENU】を押す

- Bluetooth の初期化が実行されます。初期化が完了すると、待ち受け状態の画面に戻ります。
- Bluetooth の初期化が実行されると、本機は以下の状態になります。
 - ・ 本機に接続中の Bluetooth 機器がある場合、接続が切断されます。
 - ・ Bluetooth 機器の接続情報が消去されます。
 - ・ Bluetooth 設定が “oFF” に戻ります。
 - ・ Bluetooth マイク入力切替設定が “bt” に戻ります。

その他

オプション一覧

本機用として下記のオプションが用意されています。

機種名	商品名
UCM-100	コントロールマイクロホン＜VOX 対応＞「生産完了商品」 ※ UCM-100 は単体では使用できません。UCM-100 対応イヤホン (UHS-1、UHS-2、UHS-3) と組み合わせてご使用ください。
EMC-3A	イヤホン付きクリップマイクロホン
EMC-5F	イヤホン付きクリップマイクロホン (マイク感度切り替え付き)＜VOX 対応＞
EMC-11	イヤホン付きクリップマイクロホン
EMC-12	イヤホン付きクリップマイクロホン (耳掛けタイプ)＜VOX 対応＞
KHS-21	ヘッドセット (PTT スイッチ無し)＜VOX 対応＞「生産完了商品」
KHS-35F	ヘッドセット (耳掛けタイプ)＜VOX 対応＞
KHS-55BT	ワイヤレスヘッドセット＜VOX 対応＞
UHS-1	イヤーフックタイプイヤホン (UCM-100 用)
UHS-2	アコースティックチューブイヤホン (UCM-100 用)
UHS-3	カナルタイプイヤホン (UCM-100 用)
HS-9(G)	ブチホン型イヤホン
KEP-6	イヤホン
SMC-34(G)	リモコン対応ボリューム付きスピーカーマイクロホン
SB-4	ネックストラップ
USC-3(G)	キャリングケース
UPB-5N	充電式ニッケル水素バッテリーパック
UBC-2(G)	ツインチャージャー (最大 10 台まで連結可能)「生産完了商品」
UBC-10	シングルチャージャー (AC アダプター同梱)
UBC-8ML	連結用 AC アダプター (指定の充電台を最大 6 台まで接続可能)

関連機器

機種名	商品名
UBZ-RJ27	特定小電力中継器 (セミデュプレックス適用)

次のページへつづく



- ◆ PTT ホールド機能をオプションにて使用するときは、オプション一覧の＜VOX 対応＞のオプションを使用してください。＜VOX 対応＞以外のオプションを接続すると、PTT ホールドで送信しても音声は相手に聞こえません。



- ◆ 本機に使用できるオプションが追加されたり、生産が終了したりすることがあります。オプションについてはカタログなどをご覧ください。
- ◆ 本機のオプションについては、弊社ホームページからもご覧いただけます。
<https://www.kenwood.com/jp/pro/com/license-free/option/>

故障かな？と思ったら

修理を依頼される前に下の表を確認してください。該当する症状がない場合や異常を解決できない場合は、オールリセットしてください。設定されている内容はすべてお買い上げ時の状態に戻ります。◀「オールリセット」▶ p.86 ▶

共通事項

症 状	原 因	画面表示	処 置	参照ページ
● 電源が入らない ● 画面表示がすぐ消える ● 表示が点滅して、電源が切れない	電池の容量が低下している		充電電池（バッテリーパック）を充電する	p.22
	バッテリー種別が違う		電池を交換する	p.20
			バッテリー種別を正しく設定する	p.66
			バッテリーセーブ設定、バックライト動作設定を行なう	p.63 p.67
受信すると電源が切れる	電池の性能によるもの		日本製の電池を使用する	p.17
チャンネルが切り替わらない	キーロックになっている		キーロックを解除する	p.53

その他

症 状	原 因	画面表示	処 置	参照ページ
送信ができない	受信中に送信しようとしている		チャンネルを変更するか、＜受信アイコン＞が消えるのを待つ	p.33 p.43
	通信制限時間（3分）を経過した		2秒～3秒待ってからもう一度送信する	p.42
	受信専用（送信禁止）が設定されている		受信専用（送信禁止）設定を“OFF”にする	p.60
オプション接続しても音が聞こえない	● オプションを確実に接続していない ● 指定以外のオプションが接続されている ● プラグが汚れている		電源を切り、指定オプションのプラグを抜いて清掃したあと、再度本体のスピーカー/マイク端子に確実に装着する。※	p.24

※それでも改善しない場合は、お買い上げの販売店、または JVC ケンウッド カスタマーサポートセンターにご相談ください。

次のページへつづく

症 状	原 因	画面表示	処 置	参照ページ
通信できない	運用モードが違っている UBZ-LU27/ UBZ-LU27BTのみ	中継	送信側 / 受信側ともに運用モードを合わせる	p.16 p.34
	音量が小さい		音量レベルを上げる	p.33
	チャンネル番号が違う		送信側 / 受信側ともにチャンネル番号を合わせる	p.33 p.43
	グループ番号が違う	グループ例	送信側 / 受信側ともにグループ番号を合わせる	p.35
	他のグループが同じチャンネル番号を使用している		他のチャンネルに変更する	p.33 p.44
	送信側 / 受信側いずれか一方のボイススクランブル機能を“on”に設定している	秘	送信側 / 受信側ともにボイススクランブル機能を“on”または“oFF”の設定に合わせる	p.36
	相手との距離が離れすぎている		通信のできる距離を目安に通信する	p.12
	アンテナを閉じている		アンテナを立てる	p.20
	スピーカーマイクホンやイヤホンマイクのケーブルが断線している		スピーカーマイクホンやイヤホンマイクの断線状態を確認する 他の使用可能なスピーカーマイクホンやイヤホンマイクに交換する	-

その他

症 状	原 因	画面表示	処 置	参照ページ
表示部のバックライトが消えない	バックライトが常時点灯の設定になっている		バックライト動作を“ACt”、“Any”または“oFF”に設定する	p67
何も聞こえないのに<受信アイコン>と<グループ外>が点灯する	グループ番号が設定された状態でスケルチレベルを“oFF”に設定している		スケルチレベルを“oFF”以外に設定する	p71
●バックライトが点灯しない ●ピープ音が鳴らない ●ラウドネス機能が動作しない	バッテリーセーブ設定を“ECo”に設定している		バッテリーセーブ設定を“oFF”または“on”に設定する	p63
オートチャネルセレクトが動作しない	グループ番号が設定されていない		グループ番号を設定する	p35
	運用モードが中継器アクセスモード(セミデュプレックス)“SdP”に設定している		交互通話モード(シンプレックス)“SP”に設定する UBZ-LU27/ UBZ-LU27BTのみ	p34

中継器を使用している場合 (UBZ-LU27/UBZ-LU27BTのみ)

症 状	原 因	画面表示	処 置	参照ページ
● 中継器にアクセスできない ● 中継器を設置したが、通信できる範囲が広がらない	アクセスエラー音が鳴らない ● 運用モードが中継器アクセスモード (セミデュプレックス) "SdP" に設定されていない	中継	中継器アクセスモード (セミデュプレックス) "SdP" に設定する	p34
中継器にアクセスできない	アクセスエラー音が鳴る ● チャンネル番号、グループ番号が中継器の番号と違う ● 中継器との距離が離れすぎている	グループ	チャンネル番号、グループ番号を中継器の番号と合わせる	p33 p35 p45
			通信のできる距離を目安に通信する	p.12

Bluetooth 機能を使用している場合 (UBZ-LU27BTのみ)

症 状	原 因	画面表示	処 置	参照ページ
Bluetooth 接続できない。	接続する Bluetooth 機器の電源が入っていない。		Bluetooth 接続する機器の電源を入れる。	-
	Bluetooth 機能の設定が "on" になっていない。		Bluetooth 機能の設定を "on" にする。	
	接続したい Bluetooth 機器以外の Bluetooth 機器を接続している。		接続したい Bluetooth 機器だけを電源オンにする。	

オールリセット

オールリセットすると、設定されている内容はすべてお買い上げ時の状態に戻ります。

1 一度電源を切る

2 【▲】と【▼】を押しながら、【⏻】を押して電源を入れる 表示部が全表示し、バックライトも点灯します。



◆ 本機では使用していないアイコンも表示されます。

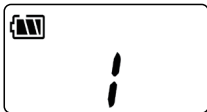
3 【▲】、【▼】、【⏻】のいずれかのキーを離す

確認のため、“SUR” (Sure?) と表示されます。



4 【PTT】を押す

すべての設定がお買い上げ時の状態に戻り、待ち受け状態になります。



- 【PTT】以外のキーを押した場合は、オールリセットしないで待ち受け状態になります。

保証とアフターサービスについて

保証書 (別添)

この製品では、保証書を「取扱説明書 (基本編)」に記載しております。保証書にお買い上げ年月日、販売店名が記載されているかお確かめください。万一記入がない場合は、直ちに販売店にお申し出ください。購入日の確認ができる書類 (シールやレシートなど) の添付でもかまいませんので、大切に保管してください。

保証期間

保証期間は、お買い上げの日より**1年間**です。
付属品の保証期間は、お買い上げの日より**1か月**です。

修理を依頼されるときは

「故障かな?と思ったら」<● p.81>を参照してお調べください。それでも異常があるときは、製品の電源を切って、お買い上げの販売店またはJVCケンウッドカスタマーサポートセンターにお問い合わせください。

修理に出された場合、設定された項目がオールリセットされ、お買い上げ時の状態に戻りますので、別途お客様ご自身でお控えくださいますようお願いいたします。また、本機の故障、誤動作、不具合などによって通信などの利用の機会を逸したために発生した損害などの付随的損害につきましては、弊社は一切その責任を負いませんので、あらかじめご了承ください。

保証期間中は・・・

正常な使用状態で故障が生じた場合、保証書の規定に従って修理させていただきます。修理に際しましては、保証書をご提示ください。

本機以外の原因 (衝撃や水分、異物の混入など) による故障の場合は、保証対象外になります。詳しくは保証書をご覧ください。

保証期間経過後は・・・

お買い上げの販売店またはJVCケンウッドカスタマーサポートセンターにご相談ください。修理によって機能が維持できる場合はお客様のご要望により有料にて修理いたします。

補修用性能部品の最低保有期限

補修用性能部品の保有期間は、製造打ち切り後最大6年程度対応できるよう努めておりますが、部品メーカーの部品廃止などにより修理の可否が変化することがあります。製造打ち切り後の修理の可否に関してはJVCケンウッドカスタマーサポートセンターにご相談ください。(補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。)

持込修理

この製品は持込修理とさせていただきます。

修理料金の仕組み (有料修理の場合は次の料金が必要です。)

技術料: 製品の故障診断、部品交換など故障箇所の修理および付帯作業にかかる費用です。技術者の人件費、技術教育費、測定機器などの設備費、一般管理費などが含まれます。

部品代: 修理に使用した部品代です。その他修理に付帯する部材などを含む場合があります。

送料: 郵便、宅配便などの料金です。保証期間内に無償修理などを行なうにあたって、お客様に負担していただく場合があります。

仕様

機種名	UBZ-LU20	UBZ-LU27	UBZ-LU27BT
チャンネル数	シンプレックス モード:20 ch	シンプレックスモード:20 ch 中継器アクセスモード:27 ch	
使用周波数帯	400 MHz 帯		
送信出力	10 mW	10 mW / 1 mW* * 中継器アクセスモードの CH1 ~ CH18 設定時のみ有効	
電波型式	F3E		
音声出力	内部: 400 mW 以上 (8 Ω 負荷、10 % 歪) 外部: 90 mW 以上 (8 Ω 負荷、10 % 歪)		
電源電圧	電池端子: DC 4.5 V 対応電源: Ni-MH 3.6 V、アルカリ乾電池 4.5 V		
使用温度範囲	-10℃ ~ +50℃		
外形寸法 (突起物含まず)	幅 55.5 mm × 高さ 104.2 mm × 奥行 26.2 mm		
質量 (アルカリ乾電池含 む、ベルトフック なし)	約 180 g		約 186 g
防塵・防水性能	IP54		
Bluetooth	-		バージョン: 5.2 クラス: Class 2 相当 (最大通信距離 10 m) 対応プロファイル: HSP

※ 仕様は予告なく変更することがあります。

JVCケンウッドカスタマーサポートセンター

固定電話からは、フリーダイヤル



0120-2727-87

携帯電話からは、ナビダイヤル



0570-010-114

一部の IP 電話など、フリーダイヤル、
ナビダイヤルがご利用になれない場合は

045-450-8950

FAX を送信される場合は

045-450-2308

住所 〒 221-0022

神奈川県横浜市神奈川区守屋町 3-12

受付日 月曜日～土曜日（祝祭日および、弊社休日を除く）

受付時間 月～金曜日 9：30～18：00

土曜日 9：30～12：00、13：00～17：30

- 商品および商品の取り扱いに関するお問い合わせは、JVCケンウッドカスタマーサポートセンターをご利用ください。
- 修理などアフターサービスについては、下記 URL の弊社ウェブサイトをご覧ください。ただか、JVCケンウッドカスタマーサポートセンターにお問い合わせください。
URL <https://www.kenwood.com/jp/cs/service.html>
- ユーザー登録 (My-Kenwood) をご利用ください。
お買い上げいただいたケンウッド商品をご愛用いただくために、弊社ホームページ内でユーザー登録することをおすすめします。
URL <https://jp.my-kenwood.com>

株式会社 JVCケンウッド

〒 221-0022 神奈川県横浜市神奈川区守屋町 3-12

©2025 JVCKENWOOD Corporation